

ヘルスケア関連企業

株価研究

メンタルヘルステクノロジーズ(9218)

第209回

禰氏はこう振り返っている。

「健康経営」を標榜する企業が増えている。社員の健康は経営の礎。社員の健康管理の枠組みの実行の有無は、今や企業を評価する「重要な物差し」といえる。

その意味でメンタルヘルステクノロジーズ(9218。以下、MHT)は、健康経営・人的資本経営実現の有能なパートナーと言えよう。

2011年設立。現代表・刀禰真之介氏の原体験が起業を牽引した。刀

400名の産業医活躍 教諭向けにも事業開始

逆に相談を受けた。当時自分の認識では、産業医は健康診断の結果から必要に応じた助言を与える程度でしかなかったが、調べていくと、世の中に精神疾患が増え、制度としてストレスチェックが始まる時期であることが分かった。そうした時流の中でも、予防ビジネスは収益化のハードルが高い。産業(保健)医というアプローチから、メンタルヘルス予防の事業化も可能性があるのではないかと考え、16年より斯界に参入した。刀禰氏の読みは時代に嵌った。MHTでは現在、1600社以上の企業と契約している。目下MHTでは400名前後の産業医が活動しているが、そこには刀禰氏

の「医者」のヒューマンリソースがポイント」という基軸が活かされている。IR担当者は、こう噛み砕いてくれた。「全員がメンタルヘルス予防に長けているわけではない。医師の評価は顧客や当社の定期的評価で上下する。精神科の医者が良いというわけではない。精神科医と交渉できる産業医が必要」。医療や建設、運輸従業者、学校の先生をはじめ介護士や保育士などエッセンシャルワーカーのメンタルヘルスケアが喫緊の課題となっている。MHTでは、沖縄県をはじめめとして学校の先生向けのメンタルヘルス対応プロジェクトを開始する。刀禰氏の目は海外、具体的にはアジアでの展開を捉えている。「今、ビジネスモデルを更に深化させる準備に取り組んでいる。アジアでの展開を考えた時に、法律に依存する産業保健では限界がある。国外でも通用するモデルにカスタマイズしていく」と語る。IPO人気の利食いこなしも、最終局面。押し目買い姿勢前提で臨むのが肝要。

介護Biz



経済評論家 千葉 明

〈筆者プロフィール〉
1949年生まれ。明治大学経済学部卒。「ブレジデント」「ネットマネー」等の雑誌を中心に活躍中。「野村証券・企業部」「ザ・ノンバンク」の「一流の経営」など著書多数。